

## ◆生育状況について

【JA管内 ふじ生育】

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3/28	4/9	4/23	4/26	5/1
令和8年	3/28	4/6	4/17	4/19	
令和7年	3/26	4/9	4/22	4/25	5/1
令和6年	4/1	4/10	4/20	4/24	4/28

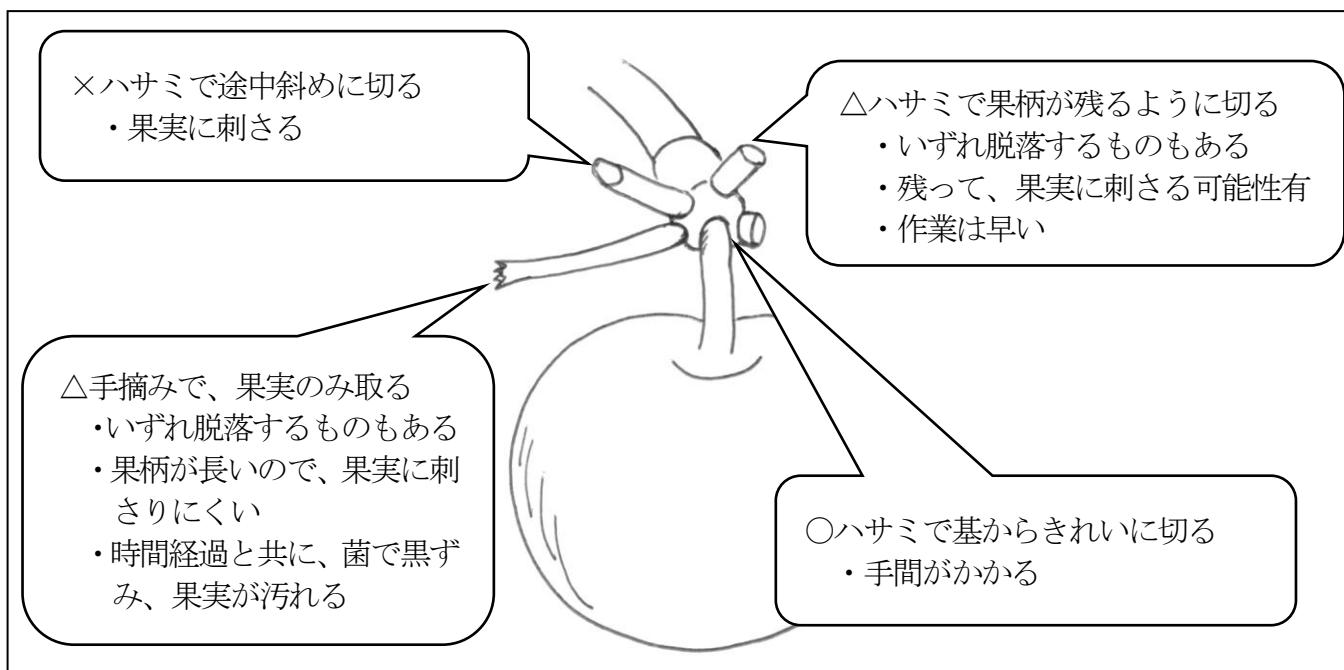
## ◆当面する重点作業について

1. 降雨が少なく、土壤乾燥が続いている場合は、定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。
2. 「がく立ち」を確認でき次第、早期にあら摘果を実施する。
3. 新梢の伸長により発生した骨格枝背面の徒長枝は、日焼け防止対策として30cmに1本程度残す。
4. 薬剤散布を適期に行い、病虫害防除に努める。
5. 腐らん病の早期発見、早期治療に努める。
6. うどんこ病の罹病枝は、感染拡大を防ぐため、見つけ次第剪除する。
7. リンゴワタムシ（メンチュウ）発生が見られる部位は、背面の徒長枝、根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
8. ケムシ類等の害虫発生が多い場合は、摘果時に捕殺に努める。
9. 計画的に雑草管理を実施する。

## ◆あら摘果について

隔年結果防止、果実肥大促進のため、養分転換期までに終了させる。

1. 時期：5月下旬頃まで（満開30日以内）に終了させる。
2. 方法：
  - 1) 基本中心果を残す。無い場合、中心果に障害がある場合は、大きく形のよい側果を残す。
  - 2) 隔年結果しやすい「ふじ」等から実施する。
3. 注意点



## ◆不受精（カラマツ）・中心花の無い・変形果（花）対応について

発生が多い場合の対策、下記内容で対応する。

1. 結実の良い園・品種から作業を行う。
2. 中心果が無い場合は、側果で対応し着果量確保を優先する。
  - 1) ふじ : 着果が少ない場合は側花（果）で対応し着果量を確保する。
  - 2) その他の品種 : 着果（花）量が多い場合は花そうごと摘果（花）する。  
着果が少ない場合は上枝の着果量を増やすか、側花（果）で対応する（サビ果・変形果など品質低下はする）
3. 着果が少ない場合は樹勢が強くなりやすい。強い枝の先には品質が劣っても着果させ樹勢を抑える。
4. カルシウム欠乏になりやすいので、カルシウム肥料の葉面散布を行う。

## ◆腐らん病処理講習会開催について

実演による講習会を開催いたします。都合のよい会場で受講ください。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
5月 8日	金	午前 9:30	篠ノ井 五明 棚田 英紀様園 ※15分前に西部流通センターに集合	徳武
			信更 信更流通センター	佐藤
		午後 1:30	更北 真島フルーツセンター	根津
			若穂 若穂果実流通センター	寺澤

※YouTubeで「長野農業農村支援センター」を検索！

「りんご腐らん病 削り取り動画」が閲覧可能。

スマートフォン・タブレットでQRコードを読み込んでみても視聴可能



## ◆ハダニ対策について

下草（ヒメオドリコ草・ギンギン等）を観察し、ハダニ発生が多い場合には、バスタ液剤又はザクサ液剤（水150ℓ当り500ml）を散布する。除草を怠るとともに、ハダニ密度を減らす。

## ◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月13日（水）～17日（日） 実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量100ℓ当り・10a当り散布量：400ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	25g	前日	ギンモンハモグリガ・ケムシ類・カメムシ類・モモチョッキリゾウムシ
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	7日	黒星病・黒点病・うどんこ病
ペンコゼブ水和剤	500倍	200g	30日	赤星病・褐斑病・斑点落葉病

3. 散布上の留意事項

- 1) 黒星病の発生が無く、褐斑病の発生が心配される場合は、ペンコゼブ水和剤に代えて、Ⓜデランフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100ml）を使用してもよい。

## ◆品質向上・カルシウム欠乏対策について

品質向上やビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第5回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量1000当り

### 【品質向上対策】

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100ml
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g

### 【カルシウム欠乏対策】

+

資材名	使用倍率	調合量
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
ストピットII	500倍	200g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

## ◆苦土欠乏対策について

苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生する。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

[葉面散布の場合]

1. 使用時期：単用使用で月2～3回散布（薬剤散布に混用する場合は、混用数が多くならないように注意する）
2. 使用資材：調合量1000当り

資材名	使用倍率	調合量
リーフマグ	1,000倍	100g
グリーントップ	500倍	200g

[土壌施用の場合]

1. 施用時期：5月
2. 施用肥料：硫酸マグネシウム25 10a当り2袋

## ◆高密植（新わい化）栽培管理について

1. フェザー苗定植後管理

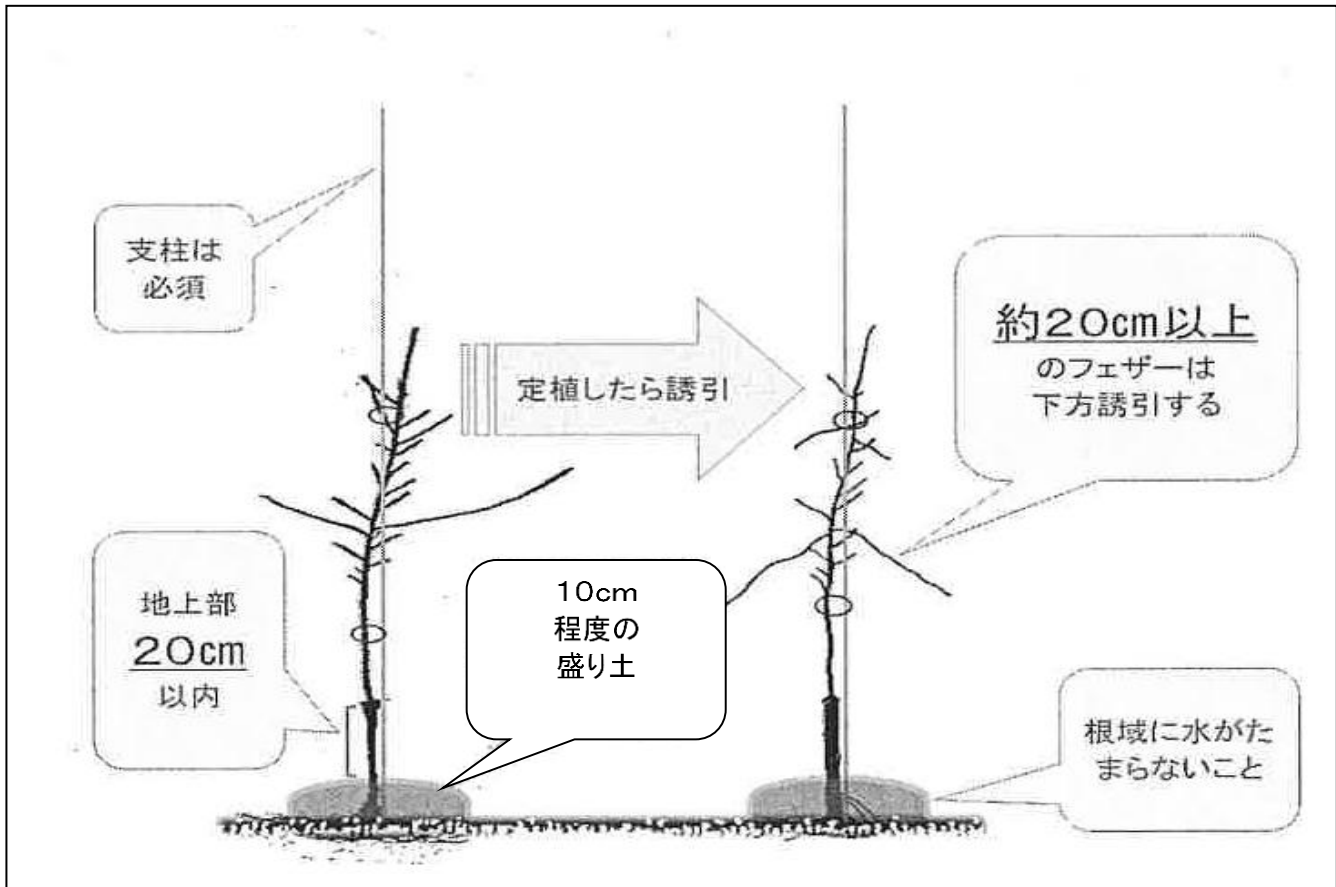
### 1) 誘引

- ①主幹を支柱に固定・・・固定した方が伸びは良い。
- ②長いフェザーの下方誘引は、角度45度です。引きすぎないように注意する。  
短いフェザーはそのままよい。誘引時期が遅くなると新梢が上向きに伸びやすい。

### 2) 生育が不良な場合

- ①台木地上部が長すぎないか・・・地上部を20cm以内にする。
- ②深植えしていないか・・・呼吸できない・水がたまる。
- ③根域が確保できているか・・・土が固い・草が茂っていると根が伸びない。
- ④接ぎ木テープが食い込んでいないか。
- ⑤排水が良いか・・・降雨後に園地に水たまりが出来ていないか確認。
- ⑥施肥・葉面散布の実施・・・弱りすぎていると吸収できない為効果が無い。肥料焼けに注意。

⑦管理（摘果・草刈り・乾燥防止のワラ・病虫害防除・かん水など）は適正か。



## 2. 樹勢判断 ※平年の生育進度の場合

- 1) 新梢の停止時期で判断します。
- 2) 5月 5日前後に停止・・・極めて弱樹勢。硫安 10 kg/10 a の施肥と葉面散布（尿素 500 倍）  
5月 15日前後に停止・・・弱樹勢。葉面散布を行う。尿素 500 倍（水 1000 当り 200g）  
5月 25日前後に停止・・・適正。満開 40 日前後ではほぼ 100% の新梢停止。

## 3. 着果管理

- 1) 過度な着果負荷は、樹勢の衰弱や貯蔵用分の不足による凍害・枯死、隔年結果、品質低下などの原因となる。早期の着果管理で樹勢を維持する。
- 2) 人の手による作業で着果管理が遅れるような場合は、次年度から薬剤摘花・摘果を検討する。

## 4. 苦土（マグネシウム）欠乏

5月中下旬頃に発生しやすく、シナノドルチェ・秋映・シナノゴールドで発生しやすく、新梢伸長が旺盛な若木は激発しやすい。対策は、苦土欠乏対策の項参照。

## 5. 施肥

### 1) 成木の全品種共通

①施用時期：5月中旬～6月

②施用：「硫安」1樹20g前後。樹勢・着果量に応じて調整する。

- 2) 定植1年目は、5月中下旬以降に主幹伸長を確認しながら、必要に応じて7月末まで窒素施用する。

2週間間隔で2～3回、「硫安」を1樹当たり20～30g施用する。

- 3) 定植2年目は、5月中下旬に樹勢が弱い場合は「有機専科」を10a当り1袋施用する。